

## 観音ねぎで有名なまち

かんおん みなみかんおん

# 観音・南観音

### 〔地名の由来〕

観音の地名は東観音町にある観音院かんのいんに由来するが、地名の読みは「かんおん」である。地名の観音の呼称は、「かんおん」(三滝観音の呼称も「みたきかんおん」)が正式との見解で、昭和40年(1965年)「かんおん」に統一。

### ① 観音院

観音院は、慶長6年(1601年)に、増光(増香)上人が創建。土地の庄屋である田頭新蔵が堂宇を寄進して以来、この辺を観音村というようになった。



マップE-4

### ② 天満宮

このあたりは、毛利輝元が広島城を築く際の町割で建てた普請小屋を家宅として残したことから、小屋新開と呼ばれていた。その後の火災の続発で、火災よけとして火雷神を祀る天満宮を勧請。

地名も天満町と改称。菅原道真公が奉られていることから、学問の神様として多くの受験生が訪れる。



マップE-4

### ③ 観音ねぎ

観音ねぎは、普通の葉ねぎより白色の部分がやや多く、柔らかくてぬめりが強い。また、ツーンとした特有の香りがある。

歴史をひもとくと、明治18年(1885年)に山下民次郎が京都の九条より葱の種子を持ち帰ったことから栽培が始まる。ねぎは砂地を好むので、埋め立てられた南観音の土地は栽培に適していた。現在では、ねぎを栽培している農家が少なくなり、出荷している農家も15軒くらいに減少している。



### ④ 天満骨董街

マップD-4

約20年前、骨董街が定着した。目を見張る高価な品物もあり、骨董好きな方にはたまらないエリア。

### ⑤ 広島県総合グランド

マップD-6

昭和16年(1941年)12月、学徒動員法による市内の学生・生徒の勤労奉仕により完成した。昭和25年(1950年)建設の野球場は、広島カープの本拠地として、広島市民球場が完成する昭和32年(1957年)まで公式戦が開催された。昭和29年(1954年)2月には、米国の野球選手だったジョー・ディマジオが新婚旅行でマリリン・モンローと一緒にこの球場を訪れている。現在は、メインスタジアム、ラグビー場、野球場、補助競技場、運動場(多目的広場)がある。



メインスタジアム(愛称)広島スタジアム

### ⑥ 広島西飛行場一空の玄関

マップD-6

昭和36年(1961年)9月に広島空港として供用開始。平成5年(1993年)10月の新しい広島空港の誕生に伴い、廃港となったが、全国初の都市間通勤用・小型機専用の広島西飛行場として開港。定期航空会社、使用事業者、警察、消防や自家用の航空機が利用している。



### ⑦ 広島観音マリーナー海の駅

ヨットやモーターボートが800隻以上収容できる、中四国最大の設備と規模のマリーナ。クラブハウスやクレーンなども充実。



平成18年(2006年)8月、「海の駅」に選ばれる。中国地方では12か所目。海浜公園からの眺め、瀬戸内海に沈む夕日は特におすすめ。

マップC-8